

令和 4 年 6 月 16 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2021

課題番号：16K12208

研究課題名（和文）介護保険施設における認知症看護の質評価指標の開発と検証

研究課題名（英文）Development and validation of a quality assessment index for dementia nursing in long-term care insurance facilities.

研究代表者

天木 伸子（AMAKI, NOBUKO）

愛知県立大学・看護学部・講師

研究者番号：40582581

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：研究目的は、介護福祉施設に入所する認知症高齢者に対し、ケアのプロセスに焦点を当てた認知症ケアの評価指標を開発することである。施設の看護師と介護士に対しフォーカスグループインタビューを実施し、その結果を基に55項目の指標項目（案）を作成した。全国の介護福祉施設の看護師と介護士を対象に指標項目について質問紙調査を行った。分析の結果、5因子構造で43項目が選定された。項目の信頼性はCronbach 係数を算出し $\alpha=0.8$ 以上が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

認知症高齢者が多く療養する介護老人福祉施設における認知症ケアの質向上が求められている。認知症ケアの指標を用いて自らのケアを振り返り評価することで、ケア実践の不足要素を明らかにすることができ、認知症ケアの質向上の一助となる。認知症特性に応じたケアは、認知症症状が安定した療養生活をおくることができ、生活機能の維持、その人らしさを尊重した生活の支援につながり、認知症高齢者の生活の質を保つことに寄与する。

研究成果の概要（英文）：This study develops an assessment index for dementia care focusing on the process of care for older people with dementia residing in long-term care facilities. Focus group interviews were conducted with nurses and caregivers at the facilities, and 55 (draft) indicator items were developed based on the results. A questionnaire survey of nurses and caregivers at care welfare facilities throughout Japan was conducted using the indicator items. As a result of the analysis, 43 items were selected with a five-factor structure. The reliability of the items showed a Cronbach's alpha coefficient of 0.8 or higher.

研究分野：老年看護学

キーワード：認知症 介護老人福祉施設 評価指標

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

認知症高齢者の増加により療養場所も、居宅、医療施設、介護施設、グループホームと拡大し、多様な場において認知症のケアニーズが高まっている。介護保険施設における認知症ケアでは、認知症の中核症状や行動・心理症状（以下、BPSD）への対応困難な状況が報告されているが、BPSD はケアによる影響を受けやすく、適切なケアにより BPSD が安定する場合もあれば、不適切なケアが BPSD を悪化させることもある。BPSD の悪化は、転倒事故を招いたり、生活行動の機能を低下させたりすることから、認知症の看護実践力を高め、認知症高齢者の尊厳を守り穏やかに療養できるためのケアの質向上が求められている。ケアの質を評価する際には、結果としての成果だけでなく成果にいたるプロセスが重要である。認知症のケアにおいても、個別性ある症状特性に適したケア方法を繰り返しの関わりから構築していく過程が重要とされ、ケアのプロセスに注目した実践を成果につなげていく質評価を活用していくことが有効であると考えられる。

認知症患者が多く療養する介護保険施設における認知症ケアの質向上が求められており、看護の実践内容を重視して質評価指標を提示することにより、看護師が自らのケアを振り返り評価することができることは、ケアの質向上の支援となると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、介護保険施設で療養する認知症高齢者に対し、認知症ケアのプロセスに焦点をあてた看護ケアの質を具体的に評価するための指標を開発すること。さらに、作成した認知症ケアの質評価指標を用いて看護師による認知症ケアの自己評価の調査を実施し、認知症ケアの実践活動状況を明らかにするとともに質評価指標の検討をすることである。

介護保険施設における認知症看護の質評価指標の開発に向けて、以下の開発と調査をする。

- (1) 介護保険施設の認知症高齢者に対し、認知症のケアプロセスに焦点を当てたケアの質を具体的に評価するための指標を開発する。
- (2) 作成した介護保険施設における認知症ケアの質評価指標を用いて、看護師・介護士による認知症ケアの自己評価の調査を実施することで質評価指標の妥当性を検証する。

3. 研究の方法

- (1) 国内外の文献検討および介護保険施設に所属する認知症看護認定看護師やケア提供者インタビューを質的に分析し、質評価指標の構成概念の整理により指標の素案を作成する。
- (2) 質評価指標の素案を作成した後、専門家パネル調査により質評価指標を修正・洗練する。修正した指標案は、老年看護学領域の研究者らによって検討会議を実施し、質評価指標を決定する。
- (3) 全国の介護老人福祉施設の看護師・介護士に対して質問紙調査を行い、認知症ケアの実践状況を明らかにするとともに統計的に質評価指標の妥当性と信頼性を検討する。

4. 研究成果

- (1) 介護保険施設における看護師と介護士の認知症ケアの実践内容 質的研究（メタ統合）
質的研究のメタ統合により、介護保険施設における看護職と介護職の認知症ケアの実践内容を明らかにした。看護職と介護職に共通する認知症ケアは、3要素からなる10カテゴリーが見出され、認知症高齢者が過ごしやすい生活を支えるために、慣れ親しみ安心して生活できる環境づくりや、できる能力を引き出し維持する関わり、個別性や意思の理解を深めて日々の生活に活かす、思いやりを感じてリラックスできる関わり、社会とのつながりのある生活を支える実践を行っていた。安全に過ごせる生活を支えるでは、心身の健康に気を配り整えることや、事故や感染などから入居者を守る取組みを行っていた。多職種と家族との協働により生活を支えるでは、家族との関係性を保ち共に入居者を支える、多職種間で話し合い最良のケアを目指す、多職種や家族と協働して入居者の最期を看取るといった実践が行われていた。

- (2) 介護老人福祉施設における看護師と介護士の認知症ケアの実践内容

研究方法

研究対象・データ収集方法：介護老人福祉施設に所属する職員で、認知症ケア実践力を有するとして施設管理者から推薦された看護師・介護士を対象に、「重要と考える認知症ケアの実践内容」について、フォーカスグループインタビューを実施した。

分析方法：逐語録の内容から、重要と考える認知症ケアとして、具体的な実践内容について語られている部分を可能な限り研究参加者の言葉を用いて抽出してコード化し、内容の類似性に基づきカテゴリ化を行い、それぞれの意味内容を表すネーミングを付けた。分析は老年看護学および質的研究に精通した研究者を含めた複数の研究者で行い、研究参加者のメンバーチェックにより内容妥当性を確保した。

倫理的配慮：所属大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

結果

対象者の属性：4施設の施設職員22名（看護職5名、介護職17名）であり、平均年齢は42.4歳（SD9.1）、看護職・介護職の平均経験年数は16.9年（SD9.9）、認知症ケア経験平均年数は14.3年（SD8.0）であり、高齢者施設での勤務継続平均年数は10.7年（SD6.3）であった。19名が役職ありで、主任とユニットリーダーが最も多かった。対象施設の施設種類は、ユニット型が2施設、多床室2施設であった。

認知症ケアの実践内容：認知症ケアの具体的な実践内容について「カテゴリ」を用いて説明する。施設職員は認知症を有する高齢者と「親しみを持って程よい距離感での関係づくり」により信頼関係を礎としており、関係構築は偏りなく、全ての人と等しくかかわれるような節度ある接し方を心掛けていた。ケアを提供する際には、認知症高齢者の言動の背景にある思いや、現在の言動に結び付く生活歴など「様々な角度からその人らしさを探り接し方のヒントにする」ことを行い、「その人が穏やかな気持ちになる関わりを模索する」として、反応を確認しながら柔軟に関わり方を変えて、その人に合ったケアを導いていた。また、「慣れ親しみ居心地のよい環境を整える」といった生活環境の調整にも気を配っていた。さらに、言語以外で表現される体調不良の兆しに注意を払うことや、対応が困難で転倒や皮膚損傷など事故予防が必要な場合について看護職と介護職が連携して「健康と安全を守る」支援が行われていた。認知症ケアを個人で行うことに留まらず「家族と共にその人を支える」ことや、「職員同士が助け合い協働によりその人を支える」といった家族・職種間連携で最良のケアを目指していた。終末期では「家族とスタッフ全員の協働での終末期ケア」が行われ、主に看護職が主導したケアが行われていた。

考察

施設職員は、高齢者の個別性を深く理解することに努めてその情報をケアに活かし、反応に合わせてケア方法を柔軟に変更する創意工夫を繰り返していることが明らかとなった。また、対応困難時は、職員間や家族との協働で支援しており、チーム連携によりケアを充実させる取り組みの重要性が示唆された。抽出されたサブカテゴリは、評価指標の項目選定の資料とすることができると考える。

(3) 介護老人福祉施設における認知症ケアの質評価指標の作成と信頼性・妥当性の検討

研究方法

研究対象者：介護老人福祉施設で認知症高齢者へのケア実践をしている看護師・介護士

データ収集方法：施設管理者から承諾の得られた施設の看護師・介護士に調査票の配布を依頼して、看護師・介護士から研究の同意が得られた場合に回答を依頼した。調査用紙は、基本属性、所属施設特性、研修会参加状況、認知症ケアの評価指標55項目とした。

分析方法：探索的因子分析で構成概念を確認し、項目の信頼性を確認するために内的整合性による信頼性を示すCronbach係数を算出した。

倫理的配慮：所属大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

結果

施設管理者に調査依頼を行い、承諾率140（14.0%）であり、看護師・介護士817名に配布された。回収率は656名（80.2%）であった。

対象者の基本属性：取得免許は、看護師は192名（29.2%）、介護福祉士451名（68.8%）であった。対象者の平均年齢は44.0（SD10.7）歳、経験年数は16.9（SD9.2）年、認知症ケアに関する研修会への参加経験あり164名（25.0%）であった。

質評価指標の因子分析：55項目について探索的因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行い、因子数の抽出は固有値1以上でスクリープロットの傾きから5因子を採択した。各因子負荷量が0.40以上であり、他の因子に0.30以上負荷していない項目を選定した。研究者らにより項目の多義性、類似性がないか、概念全体が適切に測定される項目内容となっているかについて検討して、項目を5因子43項目に選定した。因子は、思いやりを感じてリラックスできる関わり、個別性を理解したケア、安全と安心を保つケア、交流を用いた生活支援、終末期ケアの充実の内容に分かれた。信頼性の検討は、内的整合性についてCronbach係数を算出した結果、43項目全体で ≥ 0.9 以上、因子毎についても ≥ 0.85 以上であった。

考察

因子分析により5因子43項目の指標項目が選定された。妥当性の検討が更に必要であるが、信頼性については一定程度保たれた指標であると判断する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 天木伸子
2. 発表標題 介護老人福祉施設における看護職と介護職の認知症ケアの実践内容
3. 学会等名 日本老年看護学会第26回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 天木伸子、百瀬由美子、藤野あゆみ、百々望
2. 発表標題 介護保険施設における看護職と介護職の認知症ケアの実践内容～質的研究のメタ統合による認知症ケアの様相～
3. 学会等名 日本看護研究学会第45回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	百瀬 由美子 (Momose Yumiko) (20262735)	愛知県立大学・看護学部・教授 (23901)	
研究分担者	藤野 あゆみ (Fujino Ayumi) (00433227)	愛知県立大学・看護学部・准教授 (23901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------